

産地戦略

実施主体 群馬県（西部農業事務所藤岡地区農業指導センター）
 都道府県 群馬県
 対象地域 藤岡市、高崎市吉井町・新町
 対象品目 イチゴ



実施期間 令和6年度

新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類 該当するものに●を付してください。

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

藤岡地区の促成イチゴは、栽培戸数約70戸、栽培面積約10haの県内有数の産地である。歴史の長い産地であるため、連作障害対策が必須であり、特にネグサレセンチュウの被害は土壌消毒による防除対策以外の方法がない。

本事業では、簡易な土壌処理による防除効果、省力化、化学農薬成分の削減について検証を行うとともに、栽培マニュアルを作成し、グリーンな栽培体系の普及を図る。

現在の栽培体系

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
主な作業名	収穫									定植		収穫	
						残渣片付							
						マルチ除去							
						耕うん							
						土壌くん蒸剤注入							
							被覆展張						
							被覆除去						
							耕うん						
							耕うん						

グリーンな栽培体系

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
主な作業名	収穫								定植			収穫	
技術名						キルパー古株枯死							マニュアル参照
						マルチ除去							
						耕うん							

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	10	▶ 10	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.3	▶ 2	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.3	▶ 2	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.3	▶ 2	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	ハウス内での毒物・劇物農薬（ドジョウビクリン）のかん注処理及び処理後、複数人数による全面被覆処理	▶ 前作栽培終了後、既存の液肥混入機を活用して希釈したキルパーをマルチ内に散布する。	作業工程の削減 作業人数の削減 劇物農薬から普通物農薬への転換

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
省力	作業工程の削減	8	▶ 3	残渣片付、耕うん、土壌くん蒸剤注入被覆の展張・除去、ガス抜き削減
省力	作業人数の削減	3	▶ 1	
環境	劇物農薬から普通物農薬への転換	1	▶ 0	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

本事業により、簡易な土壌処理による防除効果、省力化、化学農薬成分の削減について検証した結果から、防除マニュアルを作成する。管内イチゴ生産者を対象に講習会等でマニュアルを活用し、本技術の普及、定着を図る。

関係者の役割

関係者名	群馬県（藤岡地区農業指導センター）	JA多野藤岡	サンケイ化学株式会社	
役割	生産技術にかかる調査・研究 技術情報による農家指導 栽培マニュアル作成	技術情報による農家指導 農業者との調整等	技術指導、情報提供	

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

※該当なし

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

※該当なし

その他